疎開

江東区 学童集団疎開の記録

江東区

江東区 学童集団疎開の記録

目 次

はじめに …… 1
太平洋戦争と疎開 …… 2
疎開先での生活 …… 3
空襲・戦後 …… 8
帰京・その後 …… 9
学童集団疎開資料室所蔵資料 …… 10
学童集団疎開関係図書目録
（江東区立図書館所蔵）…… 12
学童集団疎開資料室

はじめに

いまから70年以上前、日本は第二次世界大戦（太平洋戦争）という大きな戦争のただなかにありました。戦争末期、都市部のこどもたちを空襲の危険が少ない地方へ住まわせる「疎開」政策が進められました。はじめは親戚の家などを頼る「縁故疎開」が主でしたが、地方に親戚がいないこどもも多く、終戦1年前の昭和19年、国と東京都、区の指導のもとに、国民学校（今の小学校）の学童を親元から離して地方で集団生活をさせる「学童集団疎開」が行われました。

江東区（当時は深川区と城東区に分かれていました）でも、3～6年生の学童、およそ1万2千人のこどもたちが学校単位で新潟・山形県の寺や旅館に疎開し、親元を離れて1年以上の集団生活を送ることを余儀なくされました。

戦争がもたらした、この歴史的な事実を風化させることなく、次の世代へ伝えていくために、江東区では当時の資料や体験談などを集め、資料室を開設して展示を行っています。

太平洋戦争と疎開

学童疎開問答

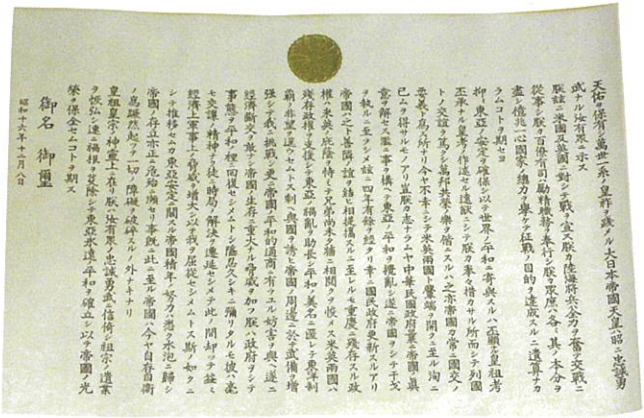
昭和12(1937)年に日中戦争が始まり、日本は長い戦争状態に入りました。そして、昭和16(1941)年12月には、アメリカ、イギリスなどとの間で太平洋戦争が始まりました。

当初は連戦連勝だった日本でしたが、次第に戦局が悪化し、敗北が続くようになりました。昭和18(1943)年に、日本本土への空襲(くうしゅう)をおそれた当時の政府は、都市部のこどもたちを空襲の少ない地方へ移動させる「疎開(そかい)」の促進を行いました。地方の親類を頼る「縁故疎開(えんこそかい)」がおもに行われましたが、親類が地方にいないこどもも多く、昭和19(1944)年には、国民学校の3年生から6年生のこどもたちの集団疎開が行われました。

それは、こどもたちを地方に行かせて都市部の防衛の足手まといとならないようにするためと、次世代の国民の命を空襲から守るためでした。疎開にあたっては、事前に疎開先の現地調査や、こどもたちの持ち物や家族との面接や衛生に関する注意といったことが行われました。また、避難という印象にならないように気をつけ、こどもを手放す親たちを安心させるための問答集なども作られました。

江東区では、当時の深川区と城東区であわせて33校、約1万2千人のこどもたちが山形県と新潟県にそれぞれ疎開しました。

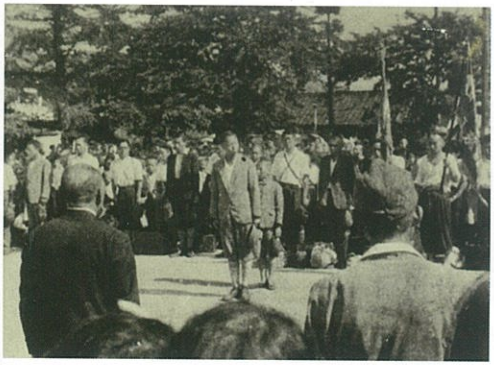
疎開輸送証明書


宣戦の詔書

疎開先での生活

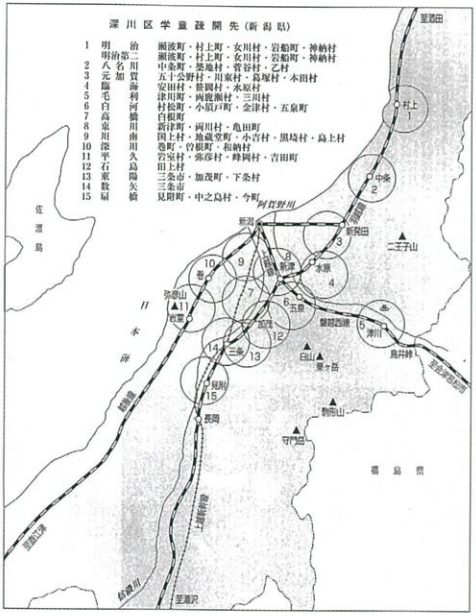
昭和19（1944）年8月より、深川区のこどもたちは新潟県へ、城東区のこどもたちは山形県へと疎開しました。国の政策として行われたこの疎開は、「（戦争に）勝つための疎開」としてそれぞれの学校で盛大な壮行式が行われ、疎開先の新潟・山形の両県でも歓迎会が行われました。

こどもたちは、親きょうだいと離れて暮らすさびしさもありましたが、はなやかに見送られ、また現地であたたかく迎えられて、引率の先生や寮母（りょうぼ）さんと一緒に疎開先での生活を始めることになりました。

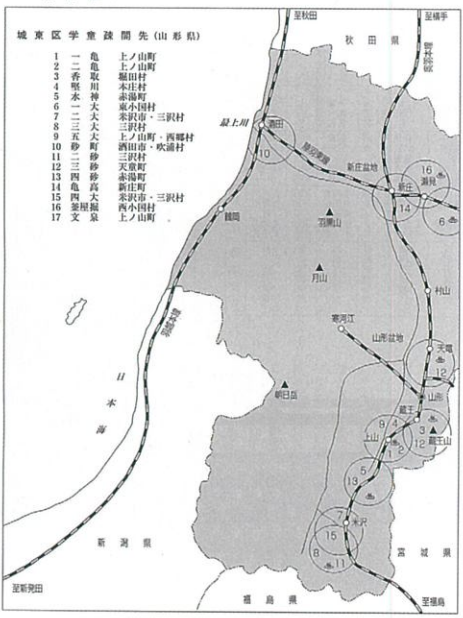


（山形県）上ノ山駅歓迎風景

深川区



城東区



学童集団疎開分布図（出典:江東区教育委員会（2002）『戦火を逃れて 新潟・山形へ 江東区学童集団疎開50周年記念誌（増補改訂版）』）

疎開先での生活

疎開先の学寮（宿舎）には、旅館や集会所、寺院などがあてられました。これらは、本来は生活するための場所ではなかったため、受入れ地では、間取りの改造や建て増し、便所の増設などの対応に追われました。

散髪風景

入浴風景

疎開時の記念写真

健診風景

授業風景

掃除風景

薪運び作業

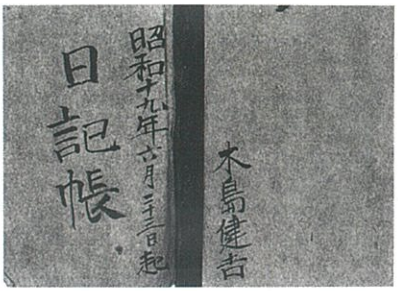
カボチャの収穫

疎開地での一日(例)

午前 5:30	起床 寝具整理・室内清掃・洗面
5:50	点呼
6:10	朝礼 (体操・朝の挨拶・寮長の朝の言葉)
6:30	朝食準備
6:40	朝食
7:00	食後の整理・登校準備
7:10	登校 帰校後自由時間
午後 4:00	自習時間
5:00	休憩
5:30	夕食準備・夕食・食後の整理
6:00	自由時間 反省・日記記入
7:30	点呼の準備 歯磨・室内の整頓・清掃・寝具用意
8:00	点呼
8:10	就寝の挨拶
8:30	消灯

明治第二国民学校新潟疎開学園　宿舎に於ける生活訓練細案より

疎開先での生活



日記帳

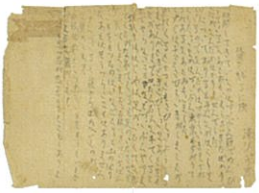
疎開したこどもたちの多くは、疎開先の国民学校に編入して、現地の先生による授業を受けました。東京から引率してきた先生は、主に学寮の運営と生活指導を行っていました。

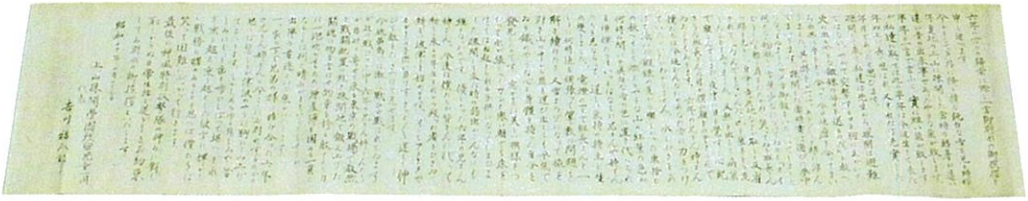
規模の大きい学校では、地元組と疎開組などのクラスにわかれて授業が行われました。また、なかには疎開組の授業は学寮で行い、遠足や運動会などの行事だけ地元のこどもたちと一緒に行う地域もありました。

こどもたちは、学寮単位で集団生活を送りました。授業が終わると水運びや薪（たきぎ）拾い、畑仕事や米づくりの手伝いなどをしました。

紙不足のため古い出席簿を利用して疎開児童が書いた絵

帰京の際の寄せ書き


疎開を終わるに際して（作文）

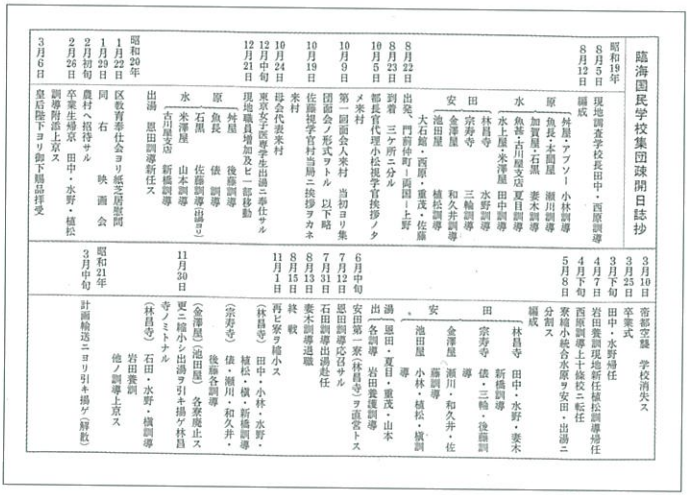

卒業生への送辞

戦争がはげしくなるにつれ、疎開先では食料や生活用品の不足に苦しめられるようになりました。衛生状態もしだいに悪くなり、ノミやシラミに悩まされるこども多くいました。

昭和19（1944）年末から翌20（1945）年4月にかけては、6年生が東京に帰ったり、新しく3年生になったこどもたちの受け入れ、また戦地で負傷して戻ってきた軍人の療養の受け入れなどのため、学寮が移ることもありました。

母から娘へのはがき

父から息子への絵手紙



臨海国民学校集団疎開日誌抄

昭和19年
8月5日　現地調査学校長田中・西原訓導
8月12日　編成
原　林屋・アブソー　小林訓導
魚長・土間屋　瀬川訓導
加賀屋・石黒　妻木訓導
水　魚善・古川屋文店　夏目訓導
水上屋・米澤屋　田中訓導
田　林昌寺　水野訓導
奈寿寺　三輪訓導
安　金澤屋　和久井訓導
池田屋　植松訓導
大石屋・西原・重茂・佐藤
8月22日　出発、門前仲町ー両国ー上野
8月23日　到着　三ケ所ニ分ル
10月5日　都長官代理小松視学官挨拶ノタメ来村
10月9日　第一回慰会入来村　当初ヨリ集団御会ノ形式ヲトル　以下略
10月19日　佐藤視学官村当局ニ挨拶ヲカネ
来村
10月24日　母会代表来村
12月中旬　東京女子医専学生出張ニ奉仕サル
12月21日　現地職員増加及ビ一部移動
村屋　後藤訓導
魚長　後藤訓導
石黒　佐藤訓導（出張ヲ）
原　米澤屋　山本訓導
古川屋文店　新橋訓導
水　出湯　恩田訓導新任ス
昭和20年
1月22日　区教育奉仕会ヨリ紙芝居贈呈
1月29日　同　右　映　画　会
2月初旬　農村ヘ招待サル
2月26日　卒業生帰京　田中・水野・植松
3月6日　調導附添上京ス
皇后陛下ヨリ御下賜品拝受
3月10日　帝都空襲　学校消失ス
3月25日　卒業式
3月下旬　田中・水野帰任
4月7日　岩田養調現地新任植松訓導帰任
4月下旬　西原訓導上十條校ニ転任
5月8日　寮舎小松会水原ヲ安田・出湯ニ分割ス
編成
林昌寺　田中・水野・妻木
奈寿寺　新橋訓導
安　金澤屋　三輪・後藤訓導
池田屋　瀬川・和久井・佐藤訓導
小林・植松・横訓導
田　恩田・夏目・重茂・山本
湯　各訓導　岩田養護訓導
出　安田第一寮（林昌寺）ヲ直営トス
6月中旬　恩田訓導応召サル
7月12日　石田訓導出湯赴任
7月31日　妻木訓導退職
8月13日　終　戦
8月15日　再ビ寮ヲ縮小ス
11月1日　田中・小林・水野・植松・横・新橋訓導（林昌寺）
（宗寿寺）　後藤・瀬川・和久井・佐藤各訓導
（金澤屋）（池田屋）　各寮廃止ス
11月30日　更ニ縮小シ出湯ヲ引キ揚ゲ林昌寺ノミトナル
（林昌寺）　石田・水野・横訓導
岩田養訓
他ノ調導上京ス
昭和21年
3月中旬　計画輸送ニヨリ引キ揚ゲ（解散）

集団疎開日誌抄

空襲前日に撮影した卒業記念写真

昭和19(1944)年8月より始まった米軍による本土空襲は、日本の主要な都市のほとんどで実施されるようになりました。そのため、昭和20(1945)年3月には学童疎開をさらに強力にすすめることになりました。

同年3月10日の東京大空襲によって、江東区のほとんどの地域が壊滅的な被害を受け、多くの死傷者がでました。6年生は卒業準備のため疎開先から帰京していましたが、多くがこの空襲に巻き込まれました。また、6年

空襲・戦後

生と入れ替わりに疎開した新3年生は命は助かりましたが、この空襲で家族を失ったこどもも多くありました。

同年8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し、太平洋戦争は終結しました。疎開先のこどもたちは、信じられない思いでこの知らせを聞きました。

空襲後の風景

東京大空襲児童画

疎開先から
戻ってきた雛人形

疎開総引き揚げ

空襲肉親供養塔

東京都が疎開児童の復帰策を打ち出したのは、終戦後1カ月以上たった9月になってからでした。10月から11月にかけて、疎開児童は家族に引き取られ、次々と東京に戻っていきました。しかし、空襲などで家族や親類を失い、孤児となったこどももいました。

帰京・その後

終戦後、疎開中のつらい思い出のため、疎開先を訪れることを避ける人がいる一方、疎開児童で同窓会を作り、当時の疎開先を訪問したり交流を深めたりする動きもでてきました。終戦から50年後の平成7(1995)年、江東区は「東京大空襲・学童集団疎開50周年記念行事」を開催し、記念誌を発行しました。このことがきっかけとなり、平成11(1999)年には当時の関係者による江東区学童疎開連絡会が発足しました。

平成12(2000)年には区立第四砂町小学校内に「学童集団疎開資料室」が開設され、当時の資料や写真を展示することになりました。この資料室は平成21(2009)年に江東図書館へ移管され、学童集団疎開の歴史を過去から現在、そして未来へと伝え続けています。

戦争疎開児童歓待記念

昭和59年に挙行した卒業式

学童集団疎開資料室所蔵資料

当資料室では、太平洋戦争期から平成7年の学童集団疎開50周年記念誌発行までの間に収集された、手紙類、写真、生活用品、公的機関発行物、パネル、ビデオ、記録集ほか、2,052点の資料を所蔵しています。

ここでは疎開当時の所蔵資料の一部をご紹介します。

手紙・はがき類

○はがき　東京の母親から疎開先（金剛寺）の娘へあてたもの（深川国民学校）
○絵はがき　未使用の軍事郵便（深川国民学校）
○手紙　疎開先（金湯）から友人へあてたもの
○絵手紙　東京の父親から疎開先の息子へあてたもの
○はがき　東京の姉が弟のいる学寮の寮母へあてたもの
○短冊　敵殲滅（せんめつ）歌27首のうちの1首（第二亀戸国民学校）
○思ひ出帳（第五大島国民学校）
○卒業生への送辞　昭和20年2月、残留児童代表の5年生が読んだもの（第二亀戸国民学校）

写真類

○帰京6年生集合写真　昭和21年3月、疎開地の駅前の写真（元加賀国民学校）
○園行寺集合写真　昭和20年2～3月（東川国民学校）
○クラス集合写真　昭和20年2月、疎開児童と現地児童との集合写真
○酒田屋旅館での慰問団との集合写真（砂町国民学校）
○岡崎屋前での集合写真（第三砂町国民学校）
○清源寺仙道和尚との集合写真　昭和20年9月（第二亀戸国民学校）
○学寮「舞鶴荘」と思われる蔵の写真（第三砂町国民学校）

公的機関発行物・行政資料

○疎開輸送証明書（石島国民学校）
○通信簿（第三砂町国民学校）　昭和20年度
○教科書『初等科音楽』三　昭和17年文部省発行
○都市疎開に伴う地方転出証明書　深川区長発行（八名川国民学校）
○身分証明書（高橋国民学校）　疎開訓導に伴う身分証明書
○罹災証明書（香取国民学校）　昭和20年3月11日発行
○酒田屋学寮昭和19年度日誌（砂町国民学校）
○學童疎開問答　昭和19年7月16日東京都教育局発行
○國民學校長會議ニ於ケル指示事項　昭和19年7月16日東京都教育庁発行
○学童疎開促進要綱（毛利国民学校）　昭和19年6月30日
○学童集団疎開と戦況（第二亀戸国民学校）　ガリ版刷りの表

疎開先に持っていったカバン

当時の布袋

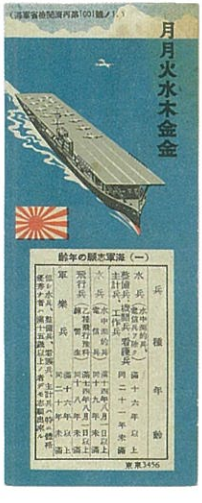
当時の筆箱

刊行物

○「週刊少国民」昭和20年3月11日号
○「アサヒグラフ」昭和19年12月6日号
○『お父さんの船』(童話絵文庫)西山敏夫著　二葉書房　1942
○吉川福太郎日記(第二亀戸国民学校)　昭和19～20年の日記を製本したもの

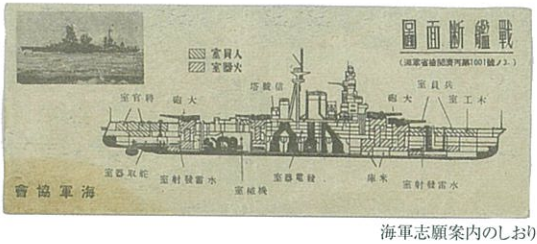
生活用品・その他

○作文「疎開を終わるに際して」(高橋国民学校)
○寄せ書き(第二亀戸国民学校)　帰京前に作成されたもの
○書初展覧会の賞状(第三砂町国民学校)
○柳行李(香取国民学校)　疎開時に児童が使用した旅行かばん
○辰巳屋飯台(第四砂町国民学校)　学寮で使用したもの
○海軍志願の案内しおり
○恩賜ビスケット袋　戦争中に皇后より疎開学童に贈られた
○筆箱(石島国民学校)　疎開時に使用したもの。セルロイド製



思ひ出帳

恩賜のビスケット袋



海軍志願案内のしおり

学童集団疎開関係図書目録（江東区立図書館所蔵）

	タイトル	著者	出版者	出版年
江東区・東京都関係	戦火を逃れて 新潟・山形へ 江東区学童集団疎開50周年記念誌 増補改訂版	江東区教育委員会／編	江東区教育委員会	2002.3
	いま語り継ぎたいあの日のこと 江東区「平和の語り部」記録集	江東区総務部総務課／編集	江東区総務部総務課	2006.10
	集団疎開四拾周年記念誌 昭和六十年八月		江東区立八名川小学校菅谷会	1985
	東京の空は遠く 越後への学童疎開		柳原伸吉	1973
	江東区学校教育のあゆみ	江東区教育委員会	江東区教育委員会	1990.3
	哀しみと憤りの学童疎開・東京大空襲 平和への執念を次代に語り継ぐ	城東区第三大島国民学校昭和十九年度同窓生有志／編集	城東区第三大島国民学校昭和十九年度同窓生有志	1996
	学童集団疎開地山形を訪ねて『哀しみと憤りの学童疎開・東京大空襲』別冊	城東区第三大島国民学校昭和十九年度同窓生有志／編集	城東区第三大島国民学校昭和十九年度同窓生有志	1998.3
	万感の思いを胸に 深川区明治国民学校・明治第二国民学校学童集団疎開五十周年交歓・交流会記念誌	関川村学童集団疎開五十周年記念誌編集委員会／編集	関川村学童集団疎開五十周年記念誌編集委員会	1996
	あゝ深川 戦時下の学童たち 学童疎開・東京大空襲・戦後	三津田宏／編	三津田宏	1998.6
	東京都平和の日記念写真展・絵画展・学童疎開展図録 第5回	東京都生活文化局	東京都生活文化局	1995.3
	平久学童集団疎開 54年目の記録		平久小学校学童疎開の会	1998.10
	資料東京都の学童疎開	東京都／編集	東京都	1996
	帝都集団学童疎開受入始末記 残存の行政資料を追って 明治国民学校・明治第二国民学校・松沢国民学校	須藤敬次郎／著	須藤敬次郎	2009.10

「戦火を逃れて 新潟・山形へ
江東区学童集団疎開50周年記念誌」
（増補改訂版）2002.3

その他

タイトル	著者	出版者	出版年
学童集団疎開の記録	川谷内勝一／著	三協社	1994.8
風の子 集団疎開の思い出	日景洋子	日景洋子	1985
21世紀へ語り継ぐ学童疎開 第4回学童疎開展	『21世紀へ語り継ぐ学童疎開展』実行委員会図録部会／編集	全国疎開学童連絡協議会	2000.8
焼けた空 汐文社・ジュニアノンフィクション	船渡和代／作	汐文社	1984.8
世界にも学童疎開があった	奥田継夫／著	日本機関紙出版センター（発売）	1990.4
子どもに伝える太平洋戦争史 4 疎開した子どもたち	和歌森太郎／［ほか］編集	岩崎書店	1991.2
ぼく達の学童疎開	万治男／著	南窓社	1991.3
学童疎開の記録 1～5	全国疎開学童連絡協議会／編	大空社	1994.7
戦後50年学童疎開の子どもたち 第1巻～第3巻	嘉藤長二郎／［ほか］編	汐文社	1995.3
学童疎開 写真・絵画集成 1～3	逸見勝亮／監修・解説	日本図書センター	2003.3
うちに帰りたい! 絵で見る学童疎開	全国疎開学童連絡協議会／編　小島義一／絵	クリエイティブ21	2007.1
わたしたちの戦争体験 4 疎開	田代脩／監修　日本児童文芸家協会／著	学研教育出版 学研マーケティング（発売）	2010.2
語り伝えるアジア・太平洋戦争 第4巻 ビジュアルブック 空襲、疎開、日本の敗戦	吉田裕／文・監修	新日本出版社	2012.2
お手玉のうた 語り継ぐ戦争絵本シリーズ 9 学童疎開	神津良子／文　池田勝子／切り絵	郷土出版社	2012.10
せんそうってなんだったの? 第2期3 語りつぎお話絵本 松なみ木はもどらない 疎開を受け入れた東北の農村	田代脩／監修	学研教育出版 学研マーケティング（発売）	2014.2
画集時空の旅 学童集団疎開70年 永久保存資料・証言掲載	成瀬國晴／著	たる出版	2014.8
テーマで調べるクローズアップ！ 日本の歴史 8 学童疎開	千葉昇／監修	ポプラ社	2015.4
あんずの木の下で 体の不自由な子どもたちの太平洋戦争	小手鞠るい／著	原書房	2015.7
もうひとつの小さな戦争 小学六年生が体験した東京大空襲と学童集団疎開の記録	小田部家邦／著	潮書房光人社	2015.10
メタセコイア 戦争で学童疎開した子どもたち	さいとうよしこ／著	早稲田童話塾	2016.4

学童集団疎開資料室

沿革

平成 7年 3月　「学童疎開五十周年記念の集い」開催

「戦火を逃れて　新潟・山形へ
江東区学童集団疎開　50周年記念誌」発行

平成11年 2月　江東区学童疎開連絡会発足

平成12年 8月　記念誌作成時に寄贈・寄託された資料をもとに、
第四砂町小学校内に「学童集団疎開資料室」開設

平成21年 8月　江東図書館内に「学童集団疎開資料室」移管開設

所 在 地　江東区南砂6−7−52　江東図書館3階

展示日時　月曜日〜土曜日：午前9時〜午後8時
日曜日・祝日・休日・12月28日：午前9時〜午後7時

休 館 日　館内整理日：毎月第3金曜日（休日に当たる場合はその前日）及び1月4日
年末年始：12月29日〜 1月3日
特別整理期間など
※詳細は、下記へお問合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

問 合 先　江東区教育委員会事務局　江東図書館
TEL：03−3640−3151　FAX：03−3615−6668
江東区立図書館ホームページ：http://www.koto-lib.tokyo.jp

疎開　ー江東区学童集団疎開の記録ー

平成24年　2月1日　第1版発行　　印刷物登録番号（29）52号
平成29年12月1日　第2版発行

編集・発行　江東区教育委員会事務局 江東図書館
〒136-0076　江東区南砂6-7-52　TEL　03-3640-3151
FAX　03-3615-6668

印刷　有限会社サムネク
〒135-0033　江東区深川2-2-12　TEL　03-3643-1059